

全国 国語教育活動レポート



このコーナーでは、全国の国語教育に関する取り組みをご紹介します。
今回は群馬県です。

本とのいっしょに出会える

「つる舞う形の群馬県」

これは群馬県の子どもたちが親しむ郷土かるた「上毛かるた」の中の一枚である。ほかには、「い」伊香保温泉 日本名湯「わ」和算の大家 関孝和 など、県内の名物や歴史などが四十四枚のかるたに詠まれている。このかるたは財団法人群馬文化協会が、子どもたちの郷土愛を育むために作成し、すでに六十年以上の歴史をもつ。

歴史の長さでは「上毛かるた」に及ばないものの、子どもたちに向けた取り組みで今年で十年目を迎えるものがある。群馬県教育委員会の「本との出会い ぐんまの子どもにすすめたい本 二〇〇選」だ。

平成十二年に、「子どもたちが良書を読む手がかりをつくりたい」という思いから、教育委員会が「読書活動推進事業」をスタート。子どもたちに読んでほしい本を選ぶために、選定委員会が設置された。

委員は、県内の小中学校関係者、学識経験者（大学教授など）、地元新聞社・書店関係者、公立図書館職員、学校の読み聞かせボランティアの総勢三十四名で構成され、委員が数ある本のなかから「日本の物語」、「自然と科学」、「歴史・地理・伝記」など九つのジャンルに分け、計二百冊を選定した。選んだ本には紹介文を加え、リーフレットを作成。県内の子どもたちに配布された。

昨年度は、このリーフレットを改訂した。改訂するにあたり、県内の小中学校読み聞かせボランティア、一般県民にアンケートを実施し、「引き続き残したい本」、「差し替えたい本」、「新たに載せたい本」などを調査し、その結果をもとに、新たな「二〇〇選」を作成。現在、教育委員会のホームページよりPDFデータをダウンロードすることができる。

選ばれた本を見てみると、『路傍の石』、『指輪物語』などのおなじみのものから、『群馬県のことば』、『尾瀬はぼくらの自然塾』、『和算で遊ぼう』など、郷土に関する良書も多数紹介されている。教育委員会では、この二百冊の貸し出しを行っており、図書の購入を検討する

学校からの貸し出し依頼も多い。また、県内の学校図書館や公立図書館では「二〇〇選コーナー」が設置されるなど、広く定着してきている。

「子どもたちが本といい出会いをするきっかけになればいいですね。今年で十年目になりますが、定期的に見直しを行いながら、長く続けていきたい。将来的には『上毛かるた』のように、地元に根づいたものになりたいと思っています」と、この取り組みに携わった義務教育課の井田明子先生は言う。

群馬県で育った人なら、誰でも「上毛かるた」をそらんじて言えるように、誰もが「二〇〇選」に載った本を読んでいる——そんな日も近いのかもしれない。



「本との出会い ぐんまの子どもにすすめたい本 200選（平成21年度改訂版）」は、群馬県教育委員会のホームページよりダウンロードできる。（現在、印刷物での配布は行っていない。）